設定マニュアル

RadiForce®

MX277WDD

カラー液晶モニター

- モニターの設置 / 接続については取扱説明書を参照してください。
- 設定マニュアルを含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。
  www.eizo.co.jp

重要

- **ご使用前には必ずこの設定マニュアルおよび取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。**

目次

1 基本の調整 / 設定 3
1.1 スイッチの操作方法 3
1.2 入力信号を切り替える 3
1.3 表示モード（CAL Switch Mode）を切り替える 4

2 詳細な調整 / 設定 5
2.1 設定メニューの基本操作方法 5
2.2 設定メニューの各機能 6

3 管理者向け設定 18
3.1 「管理者設定」メニューの基本操作方法 18
3.2 「管理者設定」メニューの各機能 18

4 こんなときは 20
4.1 画面が表示されない場合 20
4.2 画面に関する症状 21
4.3 その他の症状 22
4.4 エラーコード表 23

5 ご参考に 24
5.1 USBハブ機能の使用方法 24
5.2 主な初期設定値 25

付録 26
商標 26
ライセンス 26

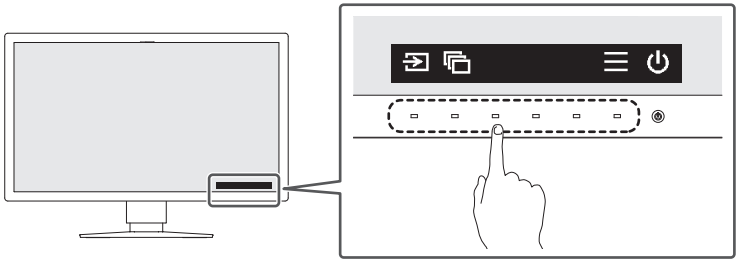
1 基本の調整 / 設定

この章では、モニター前面のスイッチに触れることで調整 / 設定できる基本の機能を説明します。

設定メニューを使って詳細に調整 / 設定する方法については「2 詳細な調整 / 設定」 [P. 5]を参照してください。

1.1 スイッチの操作方法

1. いずれかのスイッチに触れます（ を除く）。
   画面に操作ガイドが表示されます。



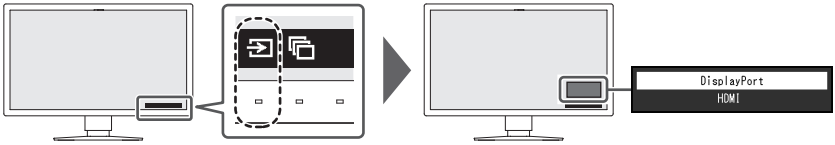
注意点

- 表示された操作ガイドに直接触れるのではなく、操作ガイドの下のスイッチに触れることで調整や設定をおこないます。

2. 調整 / 設定したいスイッチに触れます。
   調整 / 設定メニューが表示されます。
   （サブメニューが表示される場合もあります。その場合は、 で調整 / 設定したい項目を選択し、 を選択します。）
3. 各スイッチで調整 / 設定し、 を選択して確定します。
4. を選択してメニューを終了します。

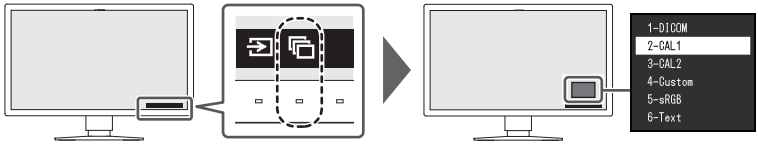
1.2 入力信号を切り替える

モニターに複数の信号を入力している場合、画面に表示する信号を切り替えることができます。



1.3 表示モード（CAL Switch Mode）を切り替える

モニターの用途に応じた表示モードに切り替えることができます。



1.3.1 CAL Switch Modeの種類

○：キャリブレーション可能

モード	目的	
1-DICOM	DICOM® Part 14 に準拠している階調特性で表示することができます。	○
2-CAL1	キャリブレーションソフトウェアによる調整状態で表示します。	○
3-CAL2		○
4-Custom	好みに応じた設定をおこなう際に選択します。	—
5-sRGB	sRGB対応の周辺機器と色を合わせる場合に適しています。	—
6-Text	文書作成や表計算などの文字表示に適しています。	—

2 詳細な調整 / 設定

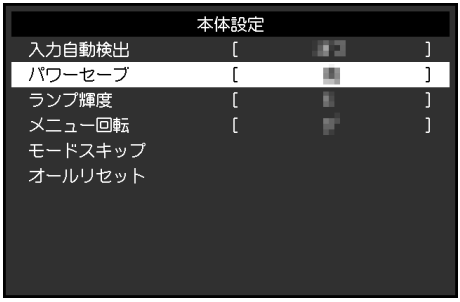
この章では、設定メニューを使ってモニターを詳細に調整 / 設定する方法を説明します。
基本的な機能については、「1 基本の調整 / 設定」 [P. 3]を参照してください。

2.1 設定メニューの基本操作方法

1. いずれかのスイッチに触れます（⏻を除く）。
   操作ガイドが表示されます。
2. ☰を選択します。
   設定メニューが表示されます。
3. ∧ ∨で、調整 / 設定したいメニューを選択し、✓を選択します。



   サブメニューが表示されます。
4. ∧ ∨で、調整 / 設定したい項目を選択し、✓を選択します。



   調整 / 設定メニューが表示されます。
5. ∧ ∨または< >で、調整 / 設定し、✓を選択して確定します。
   調整 / 設定中に✕を選択すると、調整 / 設定を中止して変更前の状態に戻ります。



6. ✕を数回選択すると、設定メニューが終了します。

2.2 設定メニューの各機能

2.2.1 CAL Switch Mode

モードの設定状態を、お好みに合わせて調整できます。調整した設定状態はモードごとに保存されます。

- DICOM / CAL1 / CAL2



- Custom / sRGB / Text



調整できる機能は、モードにより異なります。

○：調整可、—：調整不可

機能名	CAL Switch Mode					
	DICOM	CAL1	CAL2	Custom	sRGB	Text
Hybrid Gamma PXL	○	○	○	—	—	—
ブライトネス	—	—	—	○	○	○
コントラスト	—	—	—	○	○	○
色温度	—	—	—	○	○	○
ガンマ	—	—	—	○	○	○
色合い	—	—	—	○	○	○
色の濃さ	—	—	—	○	○	○
ゲイン	—	—	—	○	○	○
リセット	○	○	○	○	○	○

注意点

- 品質管理のための各種試験やキャリブレーション、モニターの画面調整は電源を入れた後、または省電力モードから復帰して15分以上経過してからおこなってください。
- モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色味を近づけるには、次の手順で調整してください。
  1. それぞれのモニターに白い画面を表示する。
  2. いずれか1台のモニターを基準に視覚的に判断しながら、「ブライトネス」「色温度」「ゲイン」を微調整する。
- 「ブライトネス」、「色温度」表示は調整の目安としてご利用ください。

モード

設定値：「DICOM」/「CAL1」/「CAL2」/「Custom」/「sRGB」/「Text」

モニターの用途に応じた表示モードに切り替えます。

モードの設定状態はお好みに合わせて、調整することもできます。調整するモードを選択し、各機能で調整してください。

Hybrid Gamma PXL

設定値：「オン」/「オフ」

Hybrid Gamma PXL機能を有効にすることで、同一画面内のモノクロとカラーをピクセルごとに自動的に判別し、カラー画像に対してカラー画像表示用のガンマ値で表示することができます。

ブライトネス

設定値：「0%」～「100%」

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

注意点

- ブライトネスが0%でも画面が明るいと感じた場合は、コントラスト調整をおこなってください。

コントラスト

設定値：「0%」～「100%」

ビデオ信号のレベルを変化させて、画面の明るさを調整します。

注意点

- コントラストを100%にした場合に、すべての色階調が表示されます。
- 画面の明るさは、初めに、階調特性を損なうことのないブライトネスで調整することをお勧めします。
- コントラスト調整は次のような場合に使用してください。
  – ブライトネスが0%でも画面が明るいと感じたとき。

色温度

設定値：「Native」/「6000K」～「15000K」（100K単位）/「sRGB」

色温度を調整します。

通常「白」または「黒」の色合いを数値的に表現するときに用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。

炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。また、色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。

注意点

- 「K」表示は調整の目安としてご利用ください。
- 「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です（「ゲイン」 [P. 8]参照）。
- 「Native」で液晶パネル本来の色（ゲインの値はRGB各100%）になります。
- ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。

ガンマ

設定値：「1.6」～「2.7」 /「sRGB」

ガンマ値を調整します。モニターは入力信号のビデオレベルによって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。

色合い

設定値：「-100」～「100」

色合いを調整します。

注意点

- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

色の濃さ

設定値：「-100」～「100」

色の濃さを調整します。

注意点

- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
- 最小値（-100）で白黒の画面となります。

ゲイン

設定値：「0%」～「100%」

色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色調を変更することができます。

注意点

- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
- 色温度の値に応じてゲインの値が変わります。
- ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。

リセット

現在選択しているモードの調整値のみを初期設定に戻します。

2.2.2 RadiCS SelfQC

この製品は、Integrated Front Sensor（キャリブレーションセンサー）を内蔵しています。Integrated Front Sensorを使って、モニターの品質管理（キャリブレーションや階調チェック）をモニター単独で実行することができます。



注意点

- 付属のRadiCSのスケジュール機能を使用することで、キャリブレーションや階調チェックのスケジュール設定をおこなうことができます。設定方法の詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。
- 内蔵キャリブレーションセンサー（Integrated Front Sensor）と別売りの外付けセンサーの測定結果を同等にするためには、RadiCSを使用してIntegrated Front Sensorと外付けセンサーの相関取り（コレレーション）を実行してください。定期的なコレレーションにより、Integrated Front Sensorは外付けセンサーと同等の測定結果を維持することができます。コレレーションに関する詳細は、RadiCS取扱説明書を参照してください。
- 内蔵の照度センサーと照度計の測定結果を同等にするためには、付属のRadiCSを使用して照度センサーの相関取り（コレレーション）をおこなってください。照度センサーのコレレーションに関する詳細は、RadiCS取扱説明書を参照してください。

SelfCalibration

SelfCalibrationを実行し、最新の結果を閲覧できます。



SelfCalibration - 実行

SelfCalibrationを実行します。

注意点

- SelfCalibration実行中にコンピュータの電源が切られる、または入力信号が切り替わった場合、実行がキャンセルされます。
- SelfCalibration実行後は、実際の使用環境と同じ温度や照度で階調チェックを実行してください。
- RadiCSを使用することで、次の項目を設定することができます。設定方法の詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。
  - キャリブレーションの調整目標
  - SelfCalibrationのスケジュール
  - RadiCSでスケジュールを設定した場合は、次回の実行スケジュールが表示されます。
- キャリブレーションの調整目標値は、設定メニューの「CAL Switch Mode」で対象のモードを選択することで確認できます。

SelfCalibration - 結果閲覧

設定値：「DICOM」 / 「CAL1」 / 「CAL2」

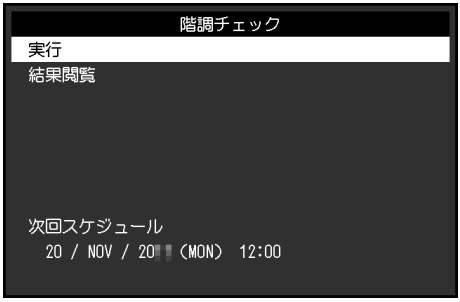
選択したモードのSelfCalibrationの実行結果（最大エラー率、前回実行日、エラーコードなど）が表示されます。

注意点

- 「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に確認できます（「設定 - 警告表示」 [P. 13]、「設定 - QC履歴表示」 [P. 13]参照）。

階調チェック

階調チェックを実行し、最新の結果を閲覧できます。また、RadiCSでスケジュールを設定した場合には、次回の実行スケジュールを表示します。



階調チェック - 実行

階調チェックを実行します。

注意点

- 実際の使用環境と同じ温度や照度で階調チェックを実行してください。
- 階調チェックの判定値は、RadiCSから設定することができます。詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。
- RadiCSを使用することで、階調チェックのスケジュールを設定することができます。設定方法の詳細は、RadiCSの取扱説明書を参照してください。RadiCSでスケジュールを設定した場合は、次回の実行スケジュールが表示されます。

階調チェック - 結果閲覧

設定値：「DICOM」 / 「CAL1」 / 「CAL2」

選択したモードの過去5回までの実行結果（合格 / 不合格 / 中止 / エラー）が表示されます。

注意点

- 「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に確認できます。

LEA



LEA - 測定時期

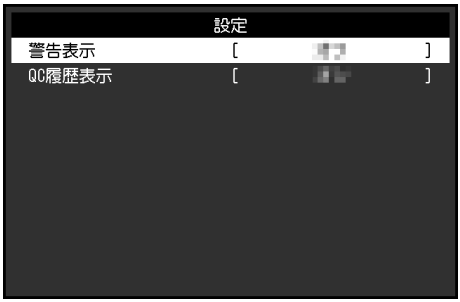
設定値：「パワーセーブ」/「定期測定」/「オフ」

モニターの寿命を予測するのに必要なデータを取得することができます。取得したデータに基づく寿命予測は、RadiCSで確認することができます。

注意点

- データは100時間ごとに収集されます。
- 「パワーセーブ」を選択した場合、100時間経過後、パワーセーブに移行するとき、または電源が切れるときにデータが収集されます。
- 「定期測定」または「パワーセーブ」を選択した場合、データ収集時にIntegrated Front Sensorが稼働して測定をおこないます。「オフ」を選択した場合は、データ収集時にIntegrated Front Sensorを使った測定はおこないません。
- 次のタイミングでデータが保存されます。
  – 500、1000、2000、4000、7000、10000、15000、20000、25000、30000 時間

設定



設定 - 警告表示

設定値：「オン」/「オフ」

この機能を「オン」に設定すると、階調チェックの結果がNGだった場合に警告を表示します。

設定 - QC履歴表示

設定値：「オン」/「オフ」

この機能を「オン」に設定すると、SelfCalibrationや階調チェックの実行結果（QC履歴表示）を表示します。

2.2.3 信号設定

画面の表示サイズを設定します。



画面拡大

設定値：「フルスクリーン」/「アスペクト比固定」/「等倍」

モニター画面に表示するサイズを切り替えることができます。

- 「フルスクリーン」
  画面全体に画像を表示します。ただし、表示画像の縦横比が固定されないため、表示画像に歪みが見られる場合があります。
- 「アスペクト比固定」
  画面全体に画像を表示します。ただし、表示画像の縦横比が固定されるため、水平、垂直のどちらかの方向に画像が表示されない部分が残る場合があります。
- 「等倍」
  設定した解像度のまま、または入力信号のままの大きさで画像が表示されます。

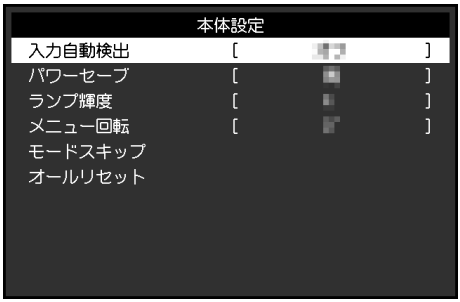
注意点

・設定例



2.2.4 本体設定

使用環境やお好みに合わせて、モニター本体の設定をおこないます。



入力自動検出

設定値：「オン」/「オフ」

信号が入力されているコネクタを自動的に判別し、画面に表示することができます。

- 「オン」
  信号が入力されているコネクタを自動的に判別し、画面に表示します。
  複数のコンピュータを接続している場合に、画面に表示しているコンピュータが省電力モードに入ったり電源が切れたりすると、自動的に他の信号を表示します。
- 「オフ」
  入力信号の選択を手動でおこなう場合、この設定にします。入力信号を切り替える場合は、「1.2 入力信号を切り替える」 [P. 3]を参照してください。

注意点

- 主電源を切り、再度電源を入れた場合は、設定内容に関係なく信号が自動的に検出されます。

パワーセーブ

設定値：「高」/「低」/「オフ」

コンピュータの状態と連動してモニターをパワーセーブモードにする、しないの設定をすることができます。

- 「高」
  バックライトを消します。最も省電力効果が高くなります。
- 「低」
  バックライトを最小点灯状態にします。パワーセーブから復帰した後、動作が安定するまでの時間を短くすることができます。
- 「オフ」
  パワーセーブモードに移行しません。コンピュータの状態に関わらずバックライトが点灯しているため、バックライトの寿命を短くする可能性があります。

注意点

- モニターを使用しないときは、主電源を切るか、電源プラグを抜くことで電力が消費されなくなります。
- モニターがパワーセーブモードの場合、またはモニターの電源スイッチ（⏻）で電源を切った場合でも、USBアップストリームポートおよびUSBダウンストリームポートに接続されている機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、パワーセーブモードであっても接続される機器によって変化します。
- コンピュータから信号が入力されなくなったことを検出すると、パワーセーブモードへの移行をお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されてから5秒後にパワーセーブモードに入ります。
- パワーセーブを「高」または「低」に設定しているときはモニターの状態を電源スイッチのランプの色で確認できます。
  - 電源ランプが緑色：モニターは通常動作モード
  - 電源ランプが橙色：モニターはパワーセーブモード

ランプ輝度

設定値：「1」～「7」/「オフ」

画面表示時の電源スイッチのランプ（緑）の明るさを設定することができます。値が大きいほど電源ランプは明るく点灯し、小さいほど暗くなります。「オフ」では電源スイッチのランプは消灯した状態です。

メニュー回転

設定値：「0°」/「90°」

モニターを縦表示にした場合は、設定メニューの向きも変更することができます。

モードスキップ

表示モードを選択するときに、特定のモードをスキップすることができます。

表示するモードを限定したい場合や、表示状態をむやみに変更したくない場合にご利用ください。

注意点

- すべてのモードを無効（スキップ）にすることはできません。1つ以上のモードを「-」に設定してください。

オールリセット

次の設定を除く、すべての設定内容を初期設定に戻します。

- 「管理者設定」メニュー内の設定

注意点

- リセット実行後は、リセット前の状態に戻すことはできません。
- 初期値については、「5.2 主な初期設定値」 [P. 25]を参照してください。

2.2.5 言語選択

設定値：「英語」/「ドイツ語」/「フランス語」/「スペイン語」/「イタリア語」/「スウェーデン語」/「日本語」/「簡体中国語」/「繁体中国語」

メニューやメッセージの表示言語を選択することができます。



2.2.6 インフォメーション

モニターの情報（製品名、製造番号（S/N）、ファームウェアバージョン、使用時間）と、入力信号の情報を確認できます。

資産管理番号は、RadiCSで設定した場合にのみ表示されます。

例：



注意点

- 工場での検査などのため、購入時に使用時間が「0」ではない場合があります。

3 管理者向け設定

この章では、「管理者設定」メニューを使ってモニターの動作を設定する方法を説明します。

3.1 「管理者設定」メニューの基本操作方法

1. ⏻に触れ、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ（⏎）に触れながら⏻に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
   「管理者設定」メニューが表示されます。
3. ∧ ∨で、設定したい項目を選択し、✓を選択します。



   調整 / 設定メニューが表示されます。
4. ∧ ∨または< >で、調整 / 設定し、✓を選択します。



5. 「管理者設定」メニューで「完了」を選択し、✓を選択します。
   設定が確定し、「管理者設定」メニューが終了します。

3.2 「管理者設定」メニューの各機能

操作ロック

設定値：「オフ」/「メニュー」/「オール」

設定した状態を変更できないように、モニター前面の操作スイッチをロックすることができます。

- 「オフ」
  すべてのスイッチが有効です。
- 「メニュー」
  ☰スイッチをロックします。
- 「オール」
  電源スイッチを除くすべてのスイッチをロックします。

注意点

- RadiCSでキャリブレーションを実行した後は、「操作ロック」の「メニュー」が選択された状態になります。

DP Power Save

設定値：「オン」/「オフ」

コンピュータをDisplayPort™コネクタに接続している場合、パワーセーブモードであってもDisplayPortの通信が有効なため、消費電力が高くなります。「DP Power Save」を「オン」にすると、パワーセーブモード時の通信を無効にし、パワーセーブ時の消費電力をセーブすることができます。

注意点

- 「オン」を選択した場合、電源のオフ / オン時、およびパワーセーブモードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれることがあります。その場合は、この機能を「オフ」に設定してください。

階調表示警告

設定値：「オン」/「オフ」

推奨解像度でDisplayPort信号を入力したときに、6bit（64階調）の信号が検知されたことを知らせる、階調表示エラーメッセージを表示するか、しないかを設定します。エラーメッセージが表示された場合は、モニターの主電源を入れ直してください。

注意点

- 通常は「オン」でご使用ください（出荷設定は「オン」です）。
- 6bit（64階調）で使用する場合のみ、「オフ」にしてください。

リミテッドレンジ警告

設定値：「オン」/「オフ」

リミテッドレンジのHDMI®入力信号が検知された場合に、警告メッセージを表示するか、しないかを設定します。警告メッセージが表示された場合は、入力信号をフルレンジに変更してください。

Sharpness Recovery

設定値：「オン」/「オフ」

Sharpness Recoveryを有効にすることで、鮮鋭度を向上させ、元画像をより忠実に再現することができます。

注意点

- 設定の切り替え後は、医療規格 / ガイドラインに基づいて目視検査を実施してください。

Daisy Chain

設定値：「オン」/「オフ」

この機能を「オン」に設定すると、この製品のDisplayPort信号出力コネクタ（DP）から別のモニターへのデイジーチェーン接続が有効になります。

4 こんなときは

4.1 画面が表示されない場合

電源スイッチのランプが点灯しない

- 電源コードは正しく接続されていますか。
- 背面の主電源スイッチを入れてください。
- ⏻に触れてください。
- 背面の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点灯：緑色

- 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（「CAL Switch Mode」 [P. 6]参照）。
- 背面の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点灯：橙色

- 入力信号を切り替えてみてください（「1.2 入力信号を切り替える」 [P. 3]参照）。
- マウス、キーボードを操作してみてください。
- コンピュータの電源は入っていますか。
- 信号ケーブルが正しく接続されていますか。選択している入力信号のコネクタに信号ケーブルを接続してください。
- DisplayPort信号を入力する場合は、信号ケーブルをDisplayPort信号入力コネクタ（DP）に接続してください。DisplayPort信号出力コネクタ（DP）は、デイジーチェーン接続時の出力に使用します。
- 背面の主電源スイッチを切り、もう一度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点滅：橙色、緑色

- 当社指定の信号ケーブルで接続してください。その後、背面の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。

画面に「入力信号無し」のメッセージが表示される

例：



- コンピュータによっては電源を入れても信号がすぐに出力されないため、上のような画面が表示されることがあります。
- コンピュータの電源は入っていますか。
- 信号ケーブルは正しく接続されていますか。選択している入力信号のコネクタに信号ケーブルを接続してください。
- 入力信号を切り替えてみてください（「1.2 入力信号を切り替える」 [P. 3]参照）。

- DisplayPort信号を入力する場合は、信号ケーブルをDisplayPort信号入力コネクタ（DP）に接続してください。DisplayPort信号出力コネクタ（DP）は、デイジーチェーン接続時の出力に使用します。
- 背面の主電源スイッチを切り、もう一度電源を入れてみてください。

画面に「信号エラー」のメッセージが表示される

例：



- コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取扱説明書「対応解像度」参照）。
- コンピュータを再起動してみてください。
- グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

4.2 画面に関する症状

画面が明るすぎる / 暗すぎる

- 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」を調整してください（「CAL Switch Mode」 [P. 6]参照）。液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、EIZOメンテナンスセンターにご相談ください。

文字がぼやけて見える

- コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取扱説明書「対応解像度」参照）。
- OSの拡大表示の設定を「100%」にしてみてください。複数のモニターを使用している場合は、すべてのモニターの拡大表示の設定を「100%」にしてみてください。

残像が現れる

- この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。
- 長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはスリープ機能を使用してください。
- 表示する画像によっては、短い時間でも残像が残ることがあります。その場合、画像を変更したり、数時間電源を切った状態にすると、解消されることがあります。

画面に緑、赤、青、白のドットが残る / 点灯しないドットが残る

- これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。

画面上に干渉縞が見られる / 液晶パネルを押した跡が消えない

- 画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。

4.3 その他の症状

設定メニューが表示できない

- 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（「操作ロック」 [P. 18]参照）。

モードメニューが表示できない

- 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（「操作ロック」 [P. 18]参照）。

操作スイッチが効かない

- 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（「操作ロック」 [P. 18]参照）。
- スイッチ表面に水滴や異物が付着していませんか。表面を軽くふき、乾いた手で再度スイッチに触れてみてください。
- 手袋を装着していませんか。手袋を外した、乾いた手で再度スイッチに触れてみてください。

デイジーチェーン接続をおこなっても画面が表示されない

- デイジーチェーン接続をする場合は、管理者設定メニューの「Daisy Chain」を「オン」に設定してください（「Daisy Chain」 [P. 19]参照）。
- 信号ケーブルが正しく接続されていますか。デイジーチェーン接続をする場合は、信号ケーブルをDisplayPort信号入力コネクタ（DP）に接続してください。2台目のモニターはDisplayPort信号出力コネクタ（DP）に接続してください。

モニターに接続しているUSB周辺機器が動作しない

- コンピュータとモニターのUSBアップストリームポートがUSBケーブルで正しく接続されていますか（「5.1 USBハブ機能の使用方法」 [P. 24]参照）。
- 周辺機器がモニターのUSBダウンストリームポートに正しく接続されていますか（「5.1 USBハブ機能の使用方法」 [P. 24]参照）。
- モニターの別のUSBダウンストリームポートに差し替えてみてください。
- コンピュータの別のUSBポートに差し替えてみてください。
- 周辺機器のデバイスドライバが最新であることを確認してください。
- コンピュータを再起動してみてください。
- 直接コンピュータと周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、当社お客様ご相談窓口にお問い合わせください。
- Windowsコンピュータをご使用の場合、BIOS（UEFI）のUSBに関する設定をご確認ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。
- コンピュータのOSが最新であることを確認してください。
- Ventura (13) 以降のmacOSをご使用の場合、USB接続時に表示される「アクセサリの接続を許可しますか？」のメッセージウィンドウで「許可」を選択してください。

Integrated Front Sensorが出たままになっている

- 背面の主電源スイッチを切り、もう一度電源を入れてみてください。

RadiCSがモニターとの接続に失敗する

- USBケーブルが抜けていないか確認してください。

SelfCalibration / 階調チェックに失敗する

- 「4.4 エラーコード表」 [P. 23]を参照してください。
- エラーコード表にないコードが表示された場合は、販売店またはEIZOサポートにご相談ください。

注意点

- Integrated Front Sensorに触らないでください。

SelfCalibration / 階調チェックの履歴に時刻が正しく表示されない

- RadiCSを使用して「モニター検出」を実行してください。詳細は、RadiCS取扱説明書を参照してください。

4.4 エラーコード表

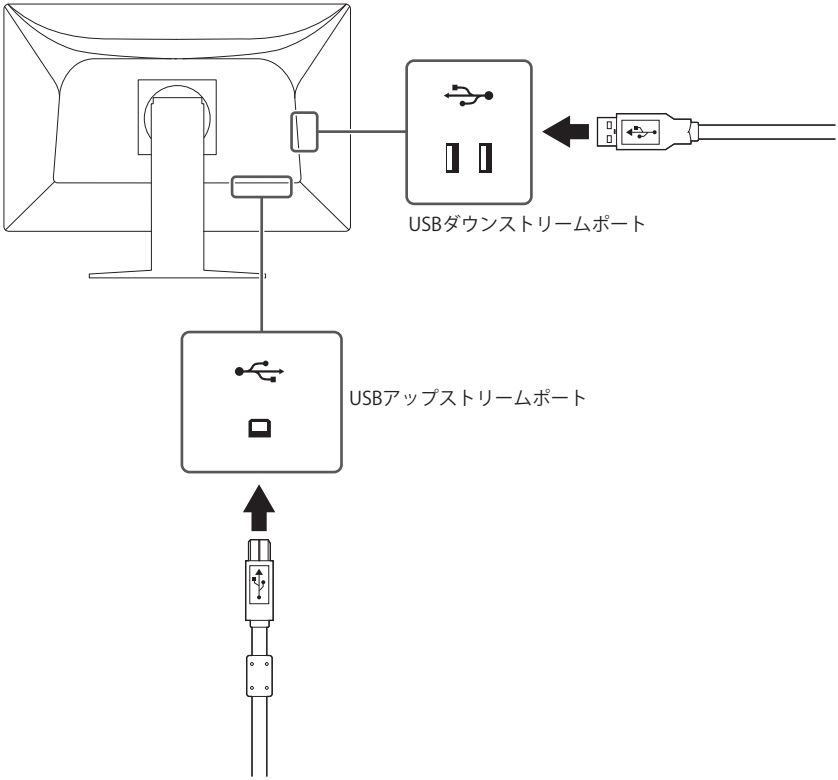
エラーコード	詳細
****50	• 製品の最大輝度が目標輝度よりも低くなっている可能性があります。 • 目標輝度を下げてみてください。
****52	• 製品の最小輝度が目標最小輝度よりも高くなっている可能性があります。 • 目標最小輝度を上げてみてください。
****05	• センサーが正しく動作しなかった可能性があります。 • 主電源を切り、数分後に再度電源を入れてからSelfCalibration / 階調チェックをやり直してみてください。
****20 ****21	• センサーが正しく動作しなかった可能性があります。 • センサーの周囲に異物がないか確認してみてください。 • SelfCalibration / 階調チェックをやり直してみてください。

5 ご参考に

5.1 USBハブ機能の使用方法

この製品はUSBハブを搭載しています。USB対応のコンピュータまたはUSBハブを搭載した他のモニターに接続することにより、この製品がUSBハブとして機能し、USBに対応している周辺機器と接続できます。

1. コンピュータ（あるいはUSBハブ搭載モニター）のUSBダウンストリームポートとこの製品のUSBアップストリームポートをUSBケーブルで接続します。
2. USB対応の周辺機器をモニターのUSBダウンストリームポートに接続します。



注意点

- 主電源スイッチがオフの場合、USBダウンストリームポートに接続されている機器は動作しません。

5.2 主な初期設定値

5.2.1 CAL Switch Mode

工場出荷時の表示設定は「1-DICOM」です。

モード	輝度	色温度	ガンマ	Hybrid Gamma PXL
1-DICOM	270 cd/m^2	7500 K	DICOM GSDF	オフ
2-CAL1	370 cd/m^2	6500 K	DICOM GSDF	オフ
3-CAL2	370 cd/m^2	6500 K	2.2	オフ
4-Custom	約 180 cd/m^2	7500 K	2.2	-（無効）
5-sRGB	約 180 cd/m^2	6500 K（sRGB）	sRGB	-（無効）
6-Text	約 100 cd/m^2	6500 K	2.2	-（無効）

5.2.2 その他

LEA - 測定時期	パワーセーブ
設定 - 警告表示	オフ
設定 - QC履歴表示	オン
画面拡大	等倍
入力自動検出	オフ
パワーセーブ	高
ランプ輝度	4
メニュー回転	0°
モードスキップ	-（すべて表示）
言語選択	日本語
操作ロック	オフ※1
DP Power Save	オフ※1
階調表示警告	オン※1
リミテッドレンジ警告	オン※1
Sharpness Recovery	オン※1
Daisy Chain	オン※1
入力	DisplayPort※1

※1 「オールリセット」（「オールリセット」 [P. 16]参照）を実行しても初期設定値には戻りません。

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interfaceという語、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Incの商標または登録商標です。



DisplayPort、DisplayPortコンプライアンスロゴは、Video Electronics Standards Associationの米国およびその他の国における商標です。

SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。



SuperSpeed USB Power Delivery Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の商標です。



USB Type-C、USB-CはUSB Implementers Forum, Incの登録商標です。

DICOMは、National Electrical Manufacturers Associationが所有する、医用情報のデジタル通信に関する規格の登録商標です。

Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

ThunderboltはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AdobeはAdobe（アドビ）の米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、macOS、Mac OS、OS X、Macintosh、ColorSyncはApple Inc.の商標です。

ENERGY STARは米国環境保護庁の米国およびその他の国における登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、CuratOR、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、RaptorはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

RadiLight、ScreenCleaner、ScreenManagerはEIZO株式会社の商標です。

その他の会社名、商品名およびロゴマークは所有者の商標または登録商標です。

ライセンス

この製品上で表示される文字には、リコーPFUコンピューティング株式会社が制作したビットマップフォントを使用しています。

この製品に使用されているオープンソースソフトウェアのライセンス情報はwww.eizoglobal.com/support/oss/に掲載されています。

00N0N760AZ
IM-MX277WDD
© 2026 EIZO Corporation. All rights reserved.
1st Edition – November, 2026